

聖霊降臨節第4週 主日礼拝

2018年6月10日

第一礼拝(午前8:00～) 第二礼拝(午前10:30～) 夕拝(午後7:30～)

前奏	(新聖歌41)		
招きのみことば	『詩篇』69篇32-36節	司会者	
※開会の賛美	新聖歌8「七日の旅路」	—	同
※信仰告白	「使徒信条」(新聖歌p.826)	—	同
代表祈禱	司会者	
感謝の賛美	新聖歌185「 ^{きた} 「来れ誰も」 ^{たれ} 」	—	同
聖書朗読	『マタイの福音書』4章23-25節、5章1-3節(新約6頁)	司会者	
黙想	—	同
説教	「心貧しきがゆえの幸い」	近伸之牧師	
※応答の賛美	新聖歌359「罪深きこの身を」	—	同
感謝の献金	(新聖歌58)	—	同
感謝祈禱	片山初子姉	
諸案内	(来信・集会案内)	司会者	
諸報告	(来会者紹介・報告・暗唱聖句)	近伸之牧師	
※頌栄の賛美	新聖歌62「 ^{あま} 天つみ民も」	—	同
※派遣の賛美	新聖歌54「主の祈り」	—	同
※祝福の祈り	近伸之牧師	
※後奏	(新聖歌59-7)		

(※印は、からだの不自由な方以外はご起立をお願いします)

第一礼拝	司会：近伸之牧師 説教	音響：片山勝三兄 献金：沼田佐代子姉	
司集	会：伊東一馬兄 会：横堀信子姉 渡邊智子姉	映像・音響：片山健司兄 説教の録画：近伸之牧師	C S 担当：佐藤繁実兄 ※掃除当番は右表参照

説教メモ

- たとえ病がいやされても、人の本質的窮乏は変わらない。だからこそイエスは、人々にみことばを語られた。
- 「貧しい」は「縮こまる、うずくまる」が原意で、乞食・物乞いの姿を表す。それが心に適用されている意図は？
- 信仰は、神に対し全面降伏すること。それが「心の貧しい者」の意味。そこから始まる幸いは内から溢れ出る

先週の暗唱聖句

「人の歩みは主によって定められる。人はどうして自分の道を悟ることができるだろう」
(『箴言』20章24節)

今週の暗唱聖句

「正しい者の救いは、主から来る。苦難のときの彼らのとりでは主である」
(『詩篇』37篇39節)

(牧師のサイン：)

個人、団体からの来信

2018年6月10日

教団より「東北宣教PROJECT」ニュースレターNo.7/「山形からの恵み」Vol.14/
新潟聖書学院より、「特別公開講座[6月27日(水)]および「夏期公開講座[7月]」の案内/
村上福音キリスト教会より献堂式およびオープンチャーチの案内/東京基督教大学より領収書

先週の集会出席者数

6/3(日)	教会学校	幼児男子- 小学男子- 中学男子- 高校男子- 男児計- 成人男性- 幼児女子1 小学女子1 中学女子- 高校女子- 女児計2 成人女性2		
	第一礼拝	男3 女4	※月に一回、実用書道教室を開催	
	聖餐礼拝(子ども)	男11 女19 男2 女児5	6/4(月) 月曜家庭集会 (休会) 6/6(水) ネヘミヤ祈禱会	男5 女3
	夕拝	男1 女1	6/8(金) シャベリ場タビタ 6/8(金) 金曜祈禱会	男- 女3 男- 女4

諸集会のご案内

	※月に一回、実用書道教室を開催。		
6/11(月)午後8:00	月曜家庭集会	山崎岩雄兄宅	
6/13(水)午後7:30	救 禱 会	教会堂	司会：山崎 敬典兄
6/15(金)午後1:30	シャベリ場タビタ	渡邊智子姉宅	問合せ先：長谷川睦子姉
6/15(金)夜	金曜祈禱会	教会堂	
6/17(日) 聖霊降臨節第5週			
第一礼拝 午前8:00	司会：近伸之牧師 説教	音響：片山 勝三兄 献金：沼田佐代子姉	
教会学校 午前9:00	担当：片山 初子姉		
第二礼拝 午前10:30	司会：片山 健司兄 集会：渡邊 智子姉 小林 洋子姉	映像・音響：片山 浩司兄 説教の録画：近伸之牧師	感謝祈禱：笹川 清子姉 ※掃除当番は下表参照
掃除当番順	6/3[猪爪 和美姉] 6/24[小山 千春姉]	6/10[片山 初子姉]	6/17[小林 洋子姉]
主日の予定	14:00～15:00	カナン訪問	司会進行：渡邊 智子姉
夕拝 午後7:30	司会：近伸之牧師 説教		

報 告

- 礼拝の感謝
主日礼拝の恵みを感謝します。みことばの恵みを心に刻みつけ、礼拝後はグループ祈禱を持ちます。また、午後2:00より会堂の学びを行いますので、祈りつつご参加ください。
- 村上福音キリスト教会の献堂式について
同教会では7月16日(月・祝)午後献堂式開催の運びとなりました。しかし参加人数に制限が設けられているため、出席できない方々のために7月22日(日)より一ヶ月間、日曜日の午後オープンチャーチも持たれます。詳細は掲示物をご覧ください。
- 先週の来会者
6月3日(日)聖餐礼拝に倉田明子姉(小竹町聖書教会員)が出席されました。
-

礼拝においては、司会者らがどんなに礼拝にふさわしい公禱をささげたとしても、他の人たちがそれにふさわしい状態にならなければ、一つの祈りとは言えない。そこで、会衆に望まれることについて、三つの点から述べておきたい。

▽まず、祈禱者が祈るときに、〇〇さんが祈るのではなく、私が祈るのだという自覚を各自が持つことである。これは、祈りを他人事のように聴いているにすぎない状態から、私たちを救う。祈りの言葉や内容に対する賛美者や批評家になることから、私たちを救う。祈りを聞くのではなく、自分も祈ることである。

▽次に、祈られる祈りに心を合わせる大切である。祈る人がだれであれ、その内容がどうであれ、さらに自分自身の状態がどうであれ、祈りは神にささげられるものであることを心に留めて、自分の心をその祈りに合わせようとする必要なのである。

▽最後に、会衆の祈りが一つの祈りであるために大切なのは、一同が祈禱の終わりに唱和するあの「アーメン」である。この一語の重みは大きい。「アーメン」とは、ギリシャ語で「仰せのとおり」とか「しかり」という意味であるが、祈られた祈りに、「私も同意します」「そうあることを願います」「本当にそうです」というような気持ちを込めて、これを唱えるわけである。

教会に来て間もない人が、クリスチャンたちは、どうして合図もなしに終わりの「アーメン」を同時に言えるのか、と不思議がったという話がある。もちろんその人は、「イエス・キリストの御名を通して祈ります」ということばをもって祈りが終わることをまだ知らなかったのであるが、それはともかくとして、一同が「アーメン」と唱和するとき、それが私たちが、皆一つの祈りをしたということの表明であり、証しであることを忘れてはならないと思う。

そして「アーメン」は確かに祈禱の最後にあるけれども、私たちはそれを終わり意識せず、むしろ祈った祈りが神に聴かれてそのわざが成るといふ期待と、祈りにふさわしい自分のあり方が、今ここに始まるのだという意識をもってそれを口にするべきであろう。以上のことを心しながら、「アーメン」はハッキリと言うことが望ましい。ささやくのではなく、明瞭に言いたいものである。

三つのことを述べたが、これらはすべて、私たちが意識的に、いわば自分の心の作業として取り組まないと現実とはなっていない問題ばかりである。しかし、お互いがこの心の作業を少しずつでも積み上げていったならば、礼拝の祈禱を通して、教会はどんなにか大きな祝福にあずかることだろうか。祈禱において一つであるということほど、礼拝を敬虔ならしめるものはないからである。



樹も草もしづかにて梅雨はじまりぬ
日野草城



ライフライン

毎週土曜日 朝5:15~5:45 BSNテレビにて放送中
☆24時間テレホン『でんわ世の光』025(272)3592



6/16(土)「全人医療を目指して(上)」田頭 真一さん

那覇市にあるキリスト教精神に立つ「オリブ山病院」、それを運営する「葦の会」理事長・田頭真一さんを2週にわたって紹介します。田頭さんはこの春、『天国で神様に会う前に済ませておくよとい8つのこと』という本を出版しました。この本で田頭さんは、人は年を取るほど幸せを感じる黄金期ならぬ、老金期(ろうごんぎ)を迎えると記しており、この本についてもお話を伺います。

Broadcast for Expanding Gospel into Niigata
BEGIN。ここから始まるあなたの伝道。

私たち豊栄キリスト教会は、ライフライン
の協力教会です。

2018年度教会目標 「弟子の覚悟をもって」

「自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません」

(『ルカの福音書』14章27節)

日本同盟基督教団 新潟山形宣教区
豊栄キリスト教会 (牧師 近 伸之)

〒950-3322 新潟県新潟市北区嘉山3-11-15

TEL: 025-387-4934 FAX: 025-250-0155

ホームページ: <http://www.toyosakakyokai.net>

電子メール: info@toyosakakyokai.net

ブログ: <http://www.toyosakakyokai.sblo.jp>

